

## 「Think Globally, Act Locally」

北海道遠軽高等学校 校長 山崎 誠

担当教諭 栗津 佐和子

### 1. 趣旨・本校のESDの特徴

本校では「主体的に学びに向かい、自己の人生を切り拓くことができる生徒を育てる」という学校教育目標の下で、ESDを「個の尊重・豊かな人間形成・心のふれあいを大切にする教育」と捉え、ESDの実践を通して生徒の主体性の伸長を図ってきた。具体的に、①国際理解に係わる教育、②SDGsに係わる教育、③学習支援、④地域の歴史文化に係わる教育を実施した。

### 2. 活動・全体計画

(1) 次のような教育活動を通して、主体性・自律性・人を思いやる姿勢を育む。

時事問題研究

異校種連携事業（高大連携事業）

「オホーツク風土研究」（学校設定科目）の授業計画

防犯協力ボランティア

短期留学生受け入れ・派遣

社会福祉協議会との連携（イベント運営、共同募金運動）

町のゴミ拾い

青年海外協力隊との連携事業

インターンシップ（町コスモス園除草作業等）

障がい者入所施設イベント運営補助

特別支援学校での共同学習

主権者教育講座／人権擁護講座

地域イベント運営補助

(2) 各種大会や研修会などに参加し、情報収集を行い生徒に還元できる活動を考察する

ユネスコスクール全国大会への参加

### 3. 活動事例

#### ①国際理解に係わる教育

・短期留学生受け入れ・派遣

本校では過去にスウェーデンやアメリカから留学生の受け入れを行ってきた。

本年度はアジア高校生架け橋プロジェクト(AFS)に参加し、中国からの留学生の受け入れを行った。授業、部活動、行事など学校生活を留学生と過ごすことによって、異なる価値観から多くのことを学び、異文化に触れる貴重な機会となった。長期の留学ということもあり、本校の生徒が交流する時間が十分にあったため、生徒は視野が広がり国際理解への関心を高めることが出来た。

#### ②SDGsに係わる教育

・時事問題研究

総合的な探究の時間では、時事問題研究を実施した。1年次ではグループに分かれSDGsに関する探究発表を行い、SDGsとは何か、世界が直面している課題について理解を深めた。2年次では前年度でのSDGs探究を踏まえ、オホーツク×SDGsを



テーマに地域探究を行った。これらの活動を通して、自身が暮らす地域を深く学ぶと共に、地域の未来を見据えた思考・行動を身につけることができた。また、協働性や個を尊重する力、主体性を育むとともに、持続可能ということがいかに重要か考えることができた。

### ③学習支援

- ・小中高ピアサポート

地域の小学校・中学校で開催されている「学習会」の場に高校生が参加し、本年度も24名の生徒が参加した。生徒は小中学生に対し積極的に学習支援を行い、同じ立場に立って課題に取り組むことや普段経験することが出来ない「支える・教える」立場に立つことにより、コミュニケーションスキルの向上や自己認識を高めることができた。

### ④地域の歴史文化に係わる教育

学校設定科目「オホーツク風土研究」において、地域の重要な地質遺産保全プログラムであるジオパークと連携し、遠軽町の歴史・文化・自然環境の研究発表を行った。ジオパークでの巡検や講座を通し、オホーツク沿岸地域及び「遠軽」について見識を深め、地域に根ざす姿勢を育むことができた。

## 4. 成果と課題

このコロナ禍で様々な活動が制限される中でも、オンラインなどを活用しながら充実した活動を行う事が出来た。それぞれの活動が線で繋がっていないものがあるのが課題である。

engaru-z0@hokkaido-c.ed.jp